

# 球磨川の冬景色(青ノリ、ボラ釣り)

～くまがわ百景～

球磨川下流域では、冬場になると青ノリが繁茂し、漁業者にとっては貴重な水産資源となっています。青ノリの繁茂するところは淡水と塩水との微妙に混じり合うところで、天然モノは毎年採取箇所が微妙に変化しているようです。また最近では技術が発達し、安定的に養殖されています。天然モノと養殖モノは明らかにノリの太さが違い、養殖モノはきめ細かいようです。この青ノリはとても珍しいもので、九州の河川では球磨川と山国川くらいしかたくさんとれません。球磨川の珍味です。価格も600円～1000円程度で求めやすく、県外の方へのお土産に最適です。



天然青のりの採取箇所(この地点は淡水と塩水が混じる地点です)



船の上から竹さおの先端についた金具で掻き取るようにして採取します。



水洗いしながら小石等を除去し、干します。冬の寒い仕事です。



養殖青のり箇所(この地点は完全に塩水が強い箇所です。)



塩水の上に淡水が乗る微妙な水深にノリ網を設置しています。(繁茂しているのが解ります。)



天日干し、乾いたら袋詰めして出荷します。軽く炙って、醤油を振って、ご飯に載せてたべたりします。



# 球磨川の冬景色(青ノリ、ボラ釣り)

～くまがわ百景～

毎年1月くらいになると、汽水域の代表的な魚種である「ボラ」は目の回りに脂肪がたまり、視力が極端に落ちるそうです。ヒラヒラ動くものに対して餌と思い、食いつく習性を利用し、球磨川下流域ではボラ釣りが古くから行われています。物干し竿のような長い釣り竿で疑似餌を水面下2mくらい垂れて、小刻みに動かし、ボラが食いつくのをじっと待ちます。



寒風吹く中、じっと食いつくのを待つ！(船は青ノリ捕り)



キタ………！一気に岸に放り上げます！



釣り上げたボラ、脂が乗ってうまい！



仕掛け(疑似餌と引っ掛ける針、通称ガックリという)



釣り竿の先端部(目印の浮が付いている)